

県北探訪だより
鷹栖観音の鬼会

令和2年1月4日、地元宇佐市の鷹栖観音の鬼会（おにえ）に行ってきました。
この行事は、およそ1300年前より疫病や飢饉から地域を救うために始められ、1年の無明息災と五穀豊穡を祈願するものです。締め込み姿で松明を掲げ、冬の駅前川を渡る様は壮観で、身が引き締まる想いでした。



外来診療のご案内

2020年1月31日現在

診療科	時間帯	月	火	水	木	金	土
精神科	午前 初診	森田 内北	西筑 口波	西平 口川	西森山 口内下	西筑田 口波北 森(第1金以外)	—
	午前 再診	西森田 口内北	西筑田 口波北	西森平 口内川	西森山田 口内下北	西筑田 口波北 森(第1金以外)	(一部再診のみ)
	午後 再診	西筑田 口波	西筑田 口波北 寺尾教授(月2回)	西森平 口内川	—	西筑田 口波北 森(第1金以外)	—
心療内科	午前 初診・再診	小関	—	小関	—	小関	—
	午後 再診	—	—	—	—	—	—

- 受付・診療時間
午前／受付 8:30～11:00 診療 9:00～12:00
午後／受付13:00～16:00 診療13:30～17:00
- 休診日
木曜日午後・金曜日午後・土曜日・日曜日・祝祭日
※心療内科の休診日は別
- 毎月2回、火曜日(午後)に大分大学医学部の寺尾教授による診察があります(週不定)。詳細につきましては、受付窓口または外来担当者・相談員にお尋ねください。

編集後記に代えて

当院スタッフの三上さんが大分県の聖火ランナーのひとりに出され、来る東京オリンピックの聖火を県民の皆様と走破することとなりました。



患者様、一人ひとりに最適な医療・ケアを目指します。

医療法人 起愛会 宇佐病院

診療科目／精神科・心療内科・内科

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐1655
TEL 0978-37-0485(代) FAX 0978-37-0256
<http://www.usa-psy.com/>
E-mail: info@usa-psy.com

宇佐病院へのアクセス

- バスをご利用の方は「神宮前バス停」下車が便利です。
- 宇佐駅より神宮前バス停まで約10分、神宮前バス停より徒歩約5分



医療法人起愛会宇佐病院広報誌 ひだまり 冬号 49



2020年1月31日発行(第49号)

医療法人 起愛会 宇佐病院広報誌

ひだまり

2020.01.31 vol. 49

TAKE FREE

冬

病院理念

宇佐病院は自然を愛し、人を愛し、地域に根ざし、精神保健・医療・福祉に貢献します。

基本方針

- ・緑と大気に包まれた心にゆとりのある精神科病院。
- ・明るく、温かい、愛の心を持つ医療の提供に努めます。
- ・全人的医療、包括医療、地域医療を目指します。
- ・患者様の権利擁護に努め、社会復帰への継続的な支援の提供を目指します。

編集・発行／医療法人起愛会宇佐病院広報委員会

TOPIC 1
地域清掃活動

令和元年11月21日、宇佐病院職員で地域清掃活動を行いました。毎年実施している活動も今年で7回目となります。63名の職員が参加し、普段利用している道路の落ち葉拾いや排水溝の清掃、草刈を行いました。日没も早く18時には辺りは暗くなっていましたが、最後まで職員全員で活動を行いました。これからも地域の皆様に貢献できるような奉仕活動を継続していきたいと考えております。



TOPIC 2
作品展・駅ビル観光

令和元年12月4日、患者様が日々作業療法の中で一生懸命作った作品がホルトホール大分に展示され、すばらしい出来栄の成果を病棟の患者様と見に行くことができました。

帰りには人で賑わう駅ビル観光を楽しみました。



TOPIC 3
クリスマス会

令和元年12月、当院内各病棟にてクリスマス会を行いました。患者様もスタッフもサンタの衣装に身を包み、スポンジケーキに生クリームを塗ったり、思い思いのデコレーションを施したり、愛着が湧くクリスマスケーキを作り、笑顔でおいしくいただくことができました。



TOPIC 4
もちつき大会

令和2年1月8日、恒例のもちつき大会を開催致しました。感染症対策として、ビニールキャップやエプロン着用で、多少趣深さがなくなりましたが、法被を着て、患者様と一緒に威勢のよい掛け声とともにおいしいおもちをつくことができました。あんこもち、きなこもち、すもちとバラエティ豊かなおもちにさせていただきました。



In-hospital workshop



院内研修会
統合失調症について

令和元年11月27日、当院にて大分大学医学部精神神経医学講座 平川博文先生に統合失調症について多角的な切り口で講義をしていただき、普段、接することが多い疾患にもかかわらず、興味をくすぐられながら聴くことができました。

さわりとしては、生存競争に勝った我々の祖先が人類存続のために統合失調症という疾患が必要な要素であった可能性が高いことや、疾患と認知される前の時代、罹患している方達が預言者や英雄として扱われたと思われるケースや、逆に魔女狩りに遭ったケースがあり、精神病院の派生については、保護的な視点による宗教型施設と社会防衛的視点による拘禁型施設があることなど、歴史的なものに始まり、症状の経過を統計資料を用いて説明していただき、自我障害のイメージは、図解で示してもらえなど、大変理解しやすい形で聴くことができました。また、連合弛緩といった解体症状の患者様の感じ方を、テレビコマーシャルを使ってイメージを湧かせ、ネガティブな要素をうまく除くことで、症状を体感的に共感することができました。その他、診察時の問診において、直接的に被害妄想や幻聴の有無を聞くのではなく、最近では携帯電話から聞こえてきませんか等、個人の感じ方などに合わせて状態像を把握するといったコツや、幻覚妄想に対して中立的立場にいることを伝えることの必要性を具体的に学ぶことができ、看護部だけでなく、すべての職種のスタッフにとって、有意義な時間となりました。

